

川と道路とともに変わりゆく歴史ある広幡

# 広幡学区

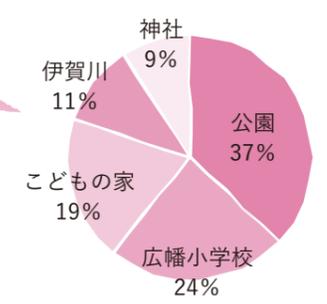
HIROHATA



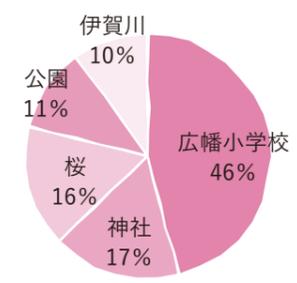
## 『広幡っ子』が、新世紀岡崎に伝えたいメッセージ

広幡っ子に聞きました!

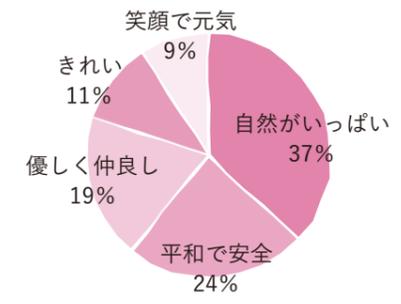
広幡学区の中で一番好きな場所は?



広幡学区に100年後にも残ってほしいものは?



将来の広幡学区の「まち」としての姿は?



みんなで考えた“将来の広幡学区”キャッチフレーズ  
**今よりもっと これからもずっと のどかできれいで 安心できる 笑顔あふれる 広幡学区**  
**緑ゆたかな この場所があるから みんな仲よく たくさんの思い出をつることができる**

今の広幡の自然をなくしてほしくない、そういう思いでデザインしました。未来には、人とロボットと一緒に遊んだり、話したり、助け合ったりしているかもしれません。「いちょうのいっちゃん」も大きくなっているでしょう。きれいな緑がいっぱいの広幡小で、また会いましょう。

### 広幡っ子が描く 広幡学区



わたしたちの学区に流れる伊賀川。春になるときれいな桜が満開になり、多くの人を訪れます。未来の伊賀川は、今よりも水がもっときれいになり、鯉などの魚も大きくなり、子どもたちが楽しく遊べる川になっているでしょう。大きなカプセルもつくられて、誰でも川に入れます。



編集後記

矢作川・伊賀川・柿田川などの河川や、国道248号を中心とした道路の変遷とともに変わっていった風景と、多くの神社・お寺に親しみ引継がれてきた伝統文化・風習により調和・融合され、学区内のそれぞれの地域が、住みやすいまちとなり、学区全体での活動につながっています。大勢のみなさまの思い出から現在の活動までを、委員の方々とまとめ、提案を繰り返す事により編集することができ、感謝申し上げます。

〔作成委員会〕 柴田昭雄/石川浩/安井均/河口等/浅井光也/古田誠/白井伸幸/柴田史興/河口庄三/近藤仁司/上野卓/都築利幸/堀田幸彦/澤田友和/石原真吾/川崎智徳/仁井本泰彦

〔参考資料〕 学区の自慢アンケート/ひろはた(広幡小学校創立110年記念誌)/城北 創立50周年・40周年/おかざき 小学校編3・4年/ねんりん(ユニチカ岡崎工場50周年記念誌)/伊賀川水辺マップ/知っておきたい岡崎の人物伝/神明宮ガイドブック/学校経営案

〔表紙写真〕 2014年に創立140周年を迎えた広幡小学校の航空写真

# 広幡学区のなりたち

額田郡第十六番小学八幡学校として授業開始（広幡小学校の前身）… 1  
校地を拡張、校舎改築、第六十学区八幡学校と改称

日名村・能見村・井田村・伊賀村が合併し広幡村になる

広幡村が広幡町になる

氾濫を繰り返していた浅川（伊賀川）の改修工事開始

広幡町が岡崎町に合併

伊賀川を岡崎城の堀へと繋げ乙川に注ぐ改修工事完了

岡崎市制施行 岡崎市立広幡尋常小学校と改称

伊賀川の川床を整地し、現在地に広幡小学校を設立

岡崎市立広幡尋常小学校に市立広幡幼稚園を付設… 2

岡崎電気軌道（後の名鉄岡崎市内線）殿橋―井田間が延伸

日名水源送水場完成 市内に通水

日本レイヨン(株)岡崎工場操業開始

佐々木朝吉さんが伊賀川堤防に桜を植樹（伊賀橋上流）

日名橋竣工（木造）、日名渡し船は翌年廃止… 3

岡崎空襲 松本町の南側以南が焼ける

元能見町が南・中・北・西と4町に分割される

伊勢湾台風 日名橋が流失 広幡小のユーカリの大木が倒れる

## DATA

□人 □ 11,426人  
男性 5,945人  
女性 5,481人  
□世帯数 5,140世帯  
□面積 2.57km<sup>2</sup>

[2016年7月1日現在]

## 学区の特色

広幡学区は昭和35年頃まで、広幡小学校の北や西に一面、田畑が広がる町でした。やがて電車通りから市電が消え、新国道248号の整備に伴い田畑が消え、住宅や工場、飲食店、大型店舗などが増加。このような道路の変化と、伊賀川の改修工事により、学区の様子は大きく変貌しました。

その移り変わりのなかで、人々は「祭り」を受け継ぎ、盆踊りや学区のさまざまな行事により、交流を深めています。さらに、安心安全な町を目指して、学区をあげて防犯活動などに取り組んでいます。



伊賀川を美しくする会と広幡小の合同奉仕作業

## 日名神明宮

### \*例大祭

日名6町の子ども神輿と子ども獅子が、ワッショイのかけ声と共に町内をにぎやかに巡行します。夜には、氏子有志による子どもや大人の舞踏や演劇、カラオケ、ビンゴゲーム大会なども開催され、景品多数で大盛り上がりです。



▷子ども神輿と子ども獅子



▷子ども相撲大会も行われる

## 心のつながり 盆踊り

盆踊りは昭和40年頃まで、伊賀町・井田町など各町で開催されていました。全国的にその数が減少するなか、日名町と元能見町では、現在も積極的に盆踊りが行われています。



能見神明宮の盆踊り  
先祖の霊を祀る御霊祭（盆踊り）  
毎年8月13～15日にかけて開催される



日名地区盆踊り大会  
住民の親睦を目的に、昭和62年から開始された。8月第1日曜から3日間行う

## 変わりゆく広幡

水害に悩まされてきた伊賀川は、これまで2度の大改修が行われました。一方、日名地区は、大きな企業の進出と共に変貌を遂げてきました。

## 伊賀川の大改修

### \*大正の大改修

大正元年、度重なる伊賀川の氾濫への対策として、当時の浅井広幡町長らが、多くの方々の協力を得て、川の流れそのものを変え、新しく川を作り直すという大規模工事を推進しました。莫大な工事費と人手を擁し、大正4年に工事が完了。以来、流域が水害で苦しむことがなくなりました。

### \*平成の大改修

平成20年8月の記録的なゲリラ豪雨で、伊賀川流域が冠水し多大な被害が出ました。これを受けて、翌年の平成21年より5年超にわたり、伊賀川の大改修工事が行われました。川はより深く広くなり、中橋から三清橋まで続いた家々は撤去され、その跡地は遊歩道に生まれ変わりました。



1/2 大正の大改修による工事竣成記念ハガキ 3 神明橋の上流、工事前の様子（平成12年4月撮影）  
4 平成20年8月末豪雨から数日後の伊賀川 5/6 平成の大改修にて、工事中の様子

## 日名の発展

昭和8年、日名地区に日本レイヨン(株)（現ユニチカ(株)）の建設が決定しました。これは、温暖な気候、矢作川の豊富な地下水などの優れた立地条件に加え、当時の岡崎市長の熱心な勧誘によるものです。従業員数は戦前最大4500人、戦後最大25000人余りの大きな規模でした。当時は社宅に共同風呂があり、夏には会社主催の盆踊りで賑わいました。戦前・戦後を通して、会社の存在が岡崎市の発展に極めて貢献したといえます。



日本レイヨン時代の工場の様子



昭和16年頃までは日名に渡し舟があった（写真は当時の渡し舟）

# 祭りと人々の心のつながり

## 伊賀八幡宮



平成28年の武者的神事の結果です！

**\*例大祭**  
毎年10月第1土・日曜に開催される伊賀八幡宮の例大祭。かつては参道に多くの露店が並び、夜には蓮池の周りで手筒花火などの花火大会が行われ、一日中賑わいました。現在は行列の縮小や花火の打ち上げもなくなり、少し物足りなさを感じます。

### \*武者的神事

江戸時代から続く武者的神事は、矢を射ち、的の割れた数でその年の吉凶を占うものです。毎年大寒の日に行列、多くの参拝者が集まります。訪れた参拝者は、静寂のなか、矢が射放された瞬間の緊張感を味わいます。



1〈武者的神事〉的板から約28m離れた場所より矢が放たれる 2〈武者的神事〉神事の前に奉納される剣舞 3〈例大祭〉伊賀八幡宮境内で、例大祭の行列を今か今かと待つ氏子 4桜まつりの家康行列は、伊賀八幡宮から出発する

## 能見神明宮

### \*例大祭

岡崎三大祭りの一つとして受け継がれてきた能見神明宮の例大祭は、毎年5月の第2日曜日の土日に行われます。1日目の前日祭では、山車のお祓いと、手筒花火が奉納されます。2日目は早朝から御神輿渡御が行われ、平安絵巻を彷彿させる200mの行列が氏子11町を巡行します。その後、8台の山車による各町への曳きまわしと、山車の前面舞台での子ども手踊りが披露されます。夜は山車が一斉に宮入をし、境内で奉納の舞を披露し最高潮を迎えます。



1御神輿渡御は氏子各町に設けられた御旅所にて安寧を祈念する 2御神輿渡御の行列は、神明宮の御神体を神輿に乗せ氏子各町を巡る 3宮入で8台の山車が子ども手踊りを奉納する 4前日祭で行われる神前奉納手筒花火は迫力満点だ

古くから受け継がれてきた祭りは、地域の絆です。これらは、時代に合わせて少しずつかたちを変えながら、未来へ継承しています。



4 城北中学校開校時、周囲は田畑であった



5 市電最後の花電車



6 松應寺とグレート家康公「葵」武将隊 (平成27年3月撮影)

- 一九六一年 ■ 昭和36
- 一九六二年 ■ 昭和37
- 一九六三年 ■ 昭和38
- 一九六六年 ■ 昭和41
- 一九六九年 ■ 昭和44
- 一九七六年 ■ 昭和51
- 一九八一年 ■ 昭和56
- 一九八四年 ■ 昭和59
- 一九八七年 ■ 昭和62
- 二〇〇〇年 ■ 平成12
- 二〇〇八年 ■ 平成20
- 二〇〇九年 ■ 平成21
- 二〇一〇年 ■ 平成22
- 二〇一一年 ■ 平成23
- 二〇一三年 ■ 平成25
- 二〇一四年 ■ 平成26

市立城北中学校開校：4

市電廃止 バス通りになる：5

日名橋 鉄筋コンクリート造に改築（現在に至る）

田畑の真ん中に国道248号 八帖―日名間開通（昭和54年に市内全線開通）

ニチボー(株)・日本レイヨン(株)が合併しユニチカ(株)発足

日名町が区画整理で本町・北町・西町・中町・南町・葵町に、元能見西町が城北町・柿田町・末広町・葵町に分割される

伊賀町・井田町等の一部が錦町・井田新町・西町・南町になる  
国鉄岡多線岡崎―新豊田間の旅客営業開始（昭和63年に第三セクター愛知環状鉄道(株)に移行）

柿田川緑道（遊歩道）完成（柿田川汚水処理事業）

日本レイヨン社宅跡地に県立岡崎西高等学校開校

日名六町で盆踊りを初開催（以後、毎年8月初旬に開催）

東海豪雨 伊賀川愛宕橋左岸で越水 洪水で被害

平成20年8月末豪雨 伊賀川氾濫で学区大洪水犠牲者が出る

伊賀川大改修 国・県・市による5か年計画開始

広幡児童育成センター開所（広幡小学校内）

伊賀川水位計 道路冠水浸水警報装置の運用開始

松本町 町おこしで松應寺横丁にぎわい市が始まる：6

あいちトリエンナーレ2013開催 松應寺横丁が会場になる

広幡小学校創立140周年



あいちトリエンナーレでは会場の松應寺横丁でペロタクシーが運行！

## 松本町の変遷とまちづくり活動

岡崎空襲により、松本町は約8割が焼失しました。その翌年、松本町の松應寺境内の一郭に7坪の店舗兼住宅を有する参道商店街が建設されると、町は買い物客などで溢れ、大変にぎわいました。しかし、スーパーの出現や生活様式の変化により、一帯は徐々に衰退していきました。平成23年から、町にわたっての活気を取り戻そうと、町内会、松應寺住職、NPO法人岡崎まち育てセンター、りたが「松應寺横丁まちづくり協議会」を立ち上げました。年2回の「松應寺横丁にぎわい市」の開催や、空き家を改装した「松本なかみせ亭」の開設などを進め、町は再生へと向かっています。



松應寺横丁にぎわい市

# 広幡学区 まちなものがたりマップ

広幡学区は、伝統と活気が共存するまちです。伊賀八幡宮、能見神明宮、松應寺などの多くの寺や神社があり、人々の生活の歴史が垣間見られます。一方、広幡小学校の北・西側の地域では、国道248号沿いに誕生した新しい町の躍動が感じられます。



**F** 柿田川緑道と井田公園  
遊歩道に四季の花が咲く、絶好の散歩コース



**E** 平八稲荷神社  
昭和3年に社殿を改築し、現在に至るとい



**D** 能見神明宮  
地元民は親しみを込めて「神明さん」と呼ぶ



**C** 明願寺  
現存する国内唯一の宗徧作の茶室がある



**A** 伊賀八幡宮  
国指定重要文化財。初夏に咲く蓮の花が美しい



**B** 伊賀川の桜  
春の訪れを告げる見事な桜並木



**G** 浄専寺(蓮如さん)  
大正8年に六地藏町より現在地に移転した



**H** 善入院(油掛け地藏)  
油を掛けて願掛けをする油掛け地藏がある



**I** 釈尊寺  
永禄の水害で流出し100年後に「釈迦牟尼如来像(しゃかもにによらいぞう)」が発見されたという



**J** 日名神明宮  
創建は仁寿元年(851)。現在は神社8社が合祀



**K** 春日(はるひ)大明神  
足利尊氏の母、上杉清子の屋敷があったとされる



**L** 松平広忠公御廟所  
家康の父、松平広忠が埋葬されたといわれる



**M** 太子堂  
松應寺横丁、松本なかみせ亭のすぐ奥にある



**N** 福寿稲荷神社  
創建は承応元年(1652)。御祭神は伏見稲荷大社をはじめ五柱

〈平成24年〉



〈昭和32年〉



旧国道248号のバイパスが開通するまでは、井田新町、井田西町、井田南町、錦町そして葵町の一帯はすべて田んぼと畑の、のどかな田園地帯でした。

昭和54年、6車線の現国道248号の開通とともに、この地域の景色は一変。大型飲食店、自動車販売店、スーパーなどが道路沿いを満たし、その背後には住宅やマンションが立ち並ぶようになりました。

COLUMN  
新旧国道248号